各地の取り組み　－山形県における植物防疫業務－

山形県病害虫防除所　土門　清

■山形県の農業の概要

山形県は、東北地方の日本海側に位置し、気候的には盆地的気候の内陸地方と海洋性気候の庄内地方の 2 つに大別される。

米は本県の基幹作物で、県内で広く栽培されている「つや姫」「はえぬき」に加え、近年は「雪若丸」といった新品種が育成されている。また、果樹栽培も盛んで、サクランボ、セイヨウナシは全国 1 位、リンゴ、ブドウも全国 3 位の収穫量となっている。特にサクランボは全国生産量の 7 割を占めている。

また、環境保全型農業を県内全域に広める「全県エコエリア構想」を推進し、環境と調和した持続的な農業生産の振興を図っている。

■病害虫防除所の沿革

1941 年に発生予察事業が始まり、本県でも普通作物の病害虫の発生調査が開始された。1952 年には植物防疫法に基づき病害虫防除所を設置し、農業試験場に県予察員を配置、普及職員等が地区予察員を兼務し、病害虫発生予察事業を開始した。その後 1962 年には病害虫防除所専任職員として、県内 5 か所に各 1 名ずつ計 5 名が配置され、1969 年には 3 か所（計 10 名）、1988 年には 1 か所（庄内支所を含む、計 13 名）に統合された。

現在は本所 10 名、庄内支所 3 名の体制となったが、内 6 名は兼務職員となっている。また、7 名の発生予察員（試験場職員）、10 名の地区調査員、122 名の病害虫防除員で山形県の植物防疫業務を担っている。

■主な業務の概要

1　発生予察業務

発生予察は 16 作物、のべ 166 種の病害虫を対象とし、病害虫発生予察情報を発表している。情報発信の方法は主に電子メールで、病害虫防除所のホームページにも掲載している。近年は発生予察情報メールマガジンを利用している農家も増加しており、情報伝達がよりスムーズになり、適期、的確な情報提供を行っている。

2　植物防疫業務

農作物の物流が盛んとなり、植物の移動に伴う病害虫の移動、発生拡大の防止についても警戒が必要となっている。本県未発生の病害虫については特に注意し、的確な病害虫診断が求められ、発生が確認された場合の迅速な防除対策の実施が重要となってきている。

3　病害虫に関する情報提供

山形県が運営する農業情報サイト「やまがたアグリネット」内で、本県で問題となる病害虫の「病害虫図鑑」を掲載しており、随時更新を行っている。また、当所のホームページには、新たな防除技術の実証結果や病害虫の発生生態・診断方法を「病害虫防除技術情報」として情報提供している。

■業務の効率化と今後の取組み

近年、本県においても人員削減の傾向にあり、限られた職員数で業務を効果的に遂行するために、これまで以上に業務の効率化を図る必要がある。一方で、病害虫防除に必要な専門的知識や病害虫診断技術はこれまでにも増して強く求められる傾向にある。

当所でも新たな発生予察手法の確立、交信かく乱剤や天敵を利用した防除対策の実証、発生生態が不明な病害虫の発生実態の解明等を行い、発生予察の効率化や防除技術の向上に努めている。

しかしながら、病害虫診断、発生予察には、原点に立ち返り現場で自らの眼で見て体で感じ、多くの経験を積むことも重要で、これまで積み上げてきた技術の伝承が今後の植物防疫、病害虫防除所の活動の根幹となると信じ、若手職員の育成に取り組んでいる。

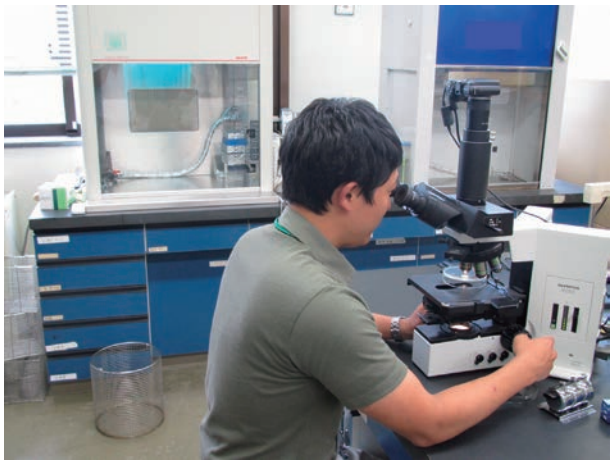

図　病害虫診断の様子